

北海道後期高齢者医療広域連合個別保健事業実施計画策定・評価の手引

平成30年5月18日 事務局長決裁

1 はじめに

北海道後期高齢者医療広域連合保健事業実施計画（以下「データヘルス計画」という。）においては、各年度の保健事業実施に当たり、データヘルス計画と一体となるものとして、個別保健事業の実施計画（予算編成等における保健事業の具体的な実施の計画。以下「個別計画」という。）を定め、具体的な内容の企画や成果指標の設定等を行うこととしています。

また、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく保健事業の実施等に関する指針（平成26年厚生労働省告示第141号）では、保健事業を効果的かつ効率的に推進するためには、健康・医療情報を活用しPDCAサイクルに沿って事業を実施することが重要であり、事業の運営に当たっては費用対効果の観点も考慮することとされています。

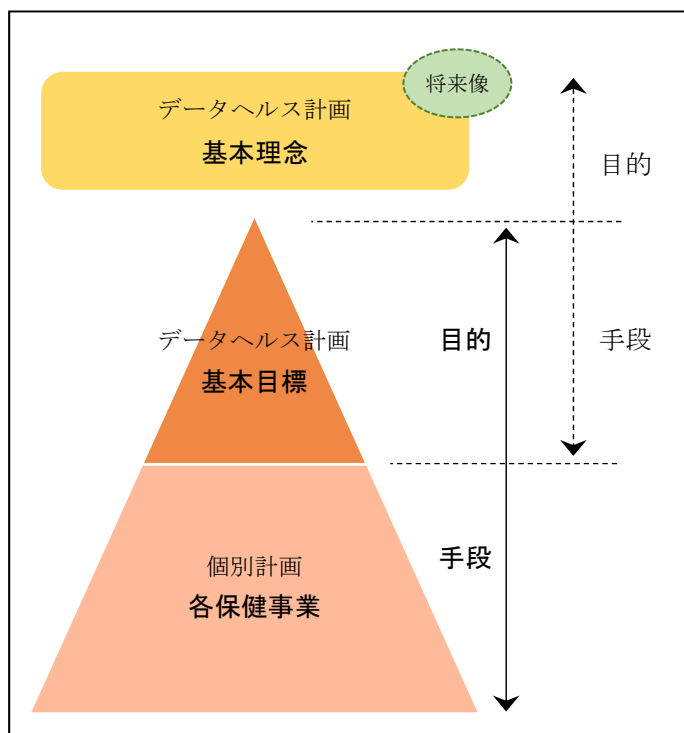
この手引では、当広域連合において行う個別計画の策定及び評価について、「個別保健事業実施計画（計画書兼評価シート）」（以下「計画評価シート」という。）の記載方法を中心に、手順や考え方、評価の視点や判定方法等を説明します。

2 様式について

個別計画の策定及び評価は、計画評価シートを用いて行うこととし、一般事業（補助事業以外の事業）用を別紙1、補助事業用を別紙2とします。

3 個別計画の策定及び評価に当たって

PDCAサイクルに沿った事業運営は、行政が「何をするか」から「何をしたか」、また「予算（計画）重視」から「決算（成果）重視」へ転換していくことによって、成果志向の行政経営を行い、住民への説明責任を果たすとともに、住民満足度の向上を図っていく手法といえます。



データヘルス計画における「基本理念」・「基本目標」と、個別計画の「各保健事業」は、左図のように体系化することができます。

この体系において、「各保健事業」は、その上位である「基本目標」（目的）を達成するための手段となるものであり、同様に「基本目標」は、（究極的には）将来像として最上位に定めた「基本理念」（目的）を達成するための手段となるべきものであることがわかります。

このことから、個別計画の策定及び評価に当たっては、「上位の目標（目的）から見てどのような手段を行うことが成果向上につながるか」という視点を持つことが重要です。

個別計画の策定及び評価は、当広域連合がデータヘルス計画の策定や評価、保健事業の推進に関し協議及び意見交換等を行うため設置している、「北海道後期高齢者医療広域連合保健事業実施に関する協議会」（市町村の職員等から構成。以下「保健事業実施協議会」という。）の場において計画評価シートの内容等を説明し、意見を聴いた上で、当広域連合において確定するものとします。

4 計画評価シート各欄の記載について

(1) 計画 (Plan)

- ・ 事業のデータヘルス計画上の位置付けを明確化するため、該当する基本目標を記載します。
- ・ 「現状と背景、趣旨」、「補助金を支出する根拠、趣旨」には、『どうして』当該事業を実施する（補助事業については補助金を支出する）のか、基本目標との関係性（一般事業）、補助金支出の根拠（補助事業）等について記載します。
- ・ 事業目的の（再）認識ができるよう、目的を「対象」と「意図」に分解し記載します。
「事業の対象」の記載では、事業の実施により働きかける相手は誰か、何を対象として事業を実施するのか記載します。
「意図」の記載では、事業を実施することで「対象」をどうしたいか、どんな状態にしたいか、なるべく具体的に記載します。
- ・ 「仕組・体制、手段・手順」は、目的を達成するため、『どうやって』事業を実施していくのか、どのような手段を使って「意図」を実現させるのか、内容をわかりやすく記載します。
- ・ 「活動指標」は、「対象」への働きかけである「手段」について、行政活動として何を行うのか、数値測定を行うものです。
- ・ 「成果指標」は、行政の働きかけによる「対象」の状態の変化、行政活動の結果により得られる効果について数値測定を行うもので、「対象」をどのような状態にしたいかという「意図」を数値化するものともいえます。
なお、個別計画は単年度の事業実施の計画となりますので、数年かけて効果が現れてくるようなものではなく、1年間を単位として変化を測定できる数値を指標として設定するようにします。
- ・ 「成果指標」の設定に当たっては、「意図」に記載するキーワードから、指標的表現＝指標名称を導き出す方法も考えられます。

【例】

意図のキーワード	意図の指標的表現（指標名称）
向上させる	向上度（率）
増やさない	増加防止度（率）（維持度（率））
減らす	減少度（率）（解消度（率））
理解させる（してもらう）	理解度（率）
速やかに	迅速度（率）

(2) 実施状況 (Do)

- ・ 実施状況では、具体的な数値を用いて事業の成果等を測定します。
- ・ 事業に係る予算上の事業名及び予算科目のほか、事業費及び財源内訳を記載します。
- ・ 事業の利用者数が把握できるものについては、利用者数及び利用者1人当たり事業費を記載します。

- ・ 計画（Plan）で設定した活動指標、成果指標について、目標値、実績値及び達成率を記載します。

(3) 半期ごとの進行管理

- ・ 計画（Plan）及び実施状況（Do）のほか、事業の実施に関し進捗管理を行うため、上半期、下半期の業務内容を目標（予定）、実績ともに記載します。
- ・ 事業の評価は、下記4－(4)のとおり、事業の実施期間（年度）終了後（翌年度に入ってから）行われる「事後評価」が基本となります。

当該事業に係る翌年度分の予算要求について考えた場合、「事後評価」のみを行うこととしていますと、事業の実施結果や事業評価の内容は前年度以前のものしか持ち得ないことから、当年度の事業実施に伴い生じた問題点や、これに対する改善点等を翌年度分の予算に活かすことができません。

翌年度分の予算や事業運営をより効果的で効率的なものとするためには、前年度以前の実施結果や評価内容等を反映させていくことはもとより、当年度（上半期）の実施状況等についても可能な限り活かすことが重要となることから、翌年度の事業として最適な内容を選択するための「事前評価」の意味も込め、当年度途中の仮評価として「事中評価」を行うこととします。

- ・ 「今後の方向性」は、成果とコストの視点から、翌年度の事業実施の方向性について、該当する欄にチェック（レ）を付します（表の意味については、下記4－(5)を参照）。

(4) 評価（Check）

- ・ 事業の実施期間（年度）終了後、事業実施に伴い生じた課題等を整理し、妥当性、有効性、効率性の視点から評価を行うとともに、総合評価を行います。総合評価の結果については、その理由等も記載します。
- ・ 妥当性、有効性、効率性については、それぞれ、1から4の観点に該当するものがある場合、該当する項目（複数あれば複数）にチェック（レ）を付します。

また、チェックの有無にかかわらず、それぞれの視点について、評価結果をAからDの記号で記載します。

- ・ 妥当性、有効性、効率性の3つの定性的な評価や、「半期ごとの進行管理」に記載された事業の実績、活動指標・成果指標の達成状況などの定量的な評価から、総合評価を行い、AからDの記号で記載します。
- ・ 妥当性の視点 = 事業を実施することの妥当性を評価し、1から4の観点に該当するものがある場合、該当する項目（複数あれば複数）にチェック（レ）を付します。

1	・ 行政が関与する必要性が薄れている。
2	・ 働きかける対象、目標とする意図の段階を見直すなど、事業の目的の再設定の必要がある。
3	・ 社会環境の変化から事業の実施意義が低下している。
4	・ 対象者、利用者の減少など、住民ニーズが低下している。 ・ サービスが過剰となっているなど、受益の機会や水準を見直す余地が残されている。

- ・ 有効性の視点 = 事業の有効性を評価し、1から4の観点に該当するものがある場合、該当する項目（複数あれば複数）にチェック（レ）を付します。

1	・ 事業の成果（意図）が基本目標の達成に結びついて（貢献して）いない。
2	・ 国・都道府県・市町村や民間が行っている事業と重複している。

	<ul style="list-style-type: none"> 当該事業以外に、類似・重複した当広域連合の事業があるため、事業内容（手段）を見直す余地が残されている。
3	<ul style="list-style-type: none"> 事業の手段（やり方）を工夫することで、更に成果を向上させることができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の達成率から判断して、事業の成果は必ずしも十分とはいえない（成果がはっきりしない）。

- 効率性の視点 = 事業の効率性を評価し、1から4の観点に該当するものがある場合、該当する項目（複数あれば複数）にチェック（レ）を付します。

1	<ul style="list-style-type: none"> 市町村や民間など他の「実施主体」を（これまで同様／これまで以上に）活用して、成果やサービス水準を維持したまま事業費を削減することが可能である。
2	<ul style="list-style-type: none"> 社会経済状況、他団体や類似事業との比較から判断して、相応の受益者負担を求める必要がある、又は、負担割合を増やす必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 電子化等の事務改善、調達費用、委託先の見直し等によって、事業費（職員が行う事務の所要時間＝人件費も考慮）削減の余地が残されている。
4	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容、手段を部分的に廃止又は縮小しても、成果（意図）の達成が可能である。

- 各視点の評価及び総合評価

A	<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり事業を進めることが適当（一般事業） 補助金を現状のとおり支出することが適当（補助事業）
B	<ul style="list-style-type: none"> 事業の進め方に改善が必要（一般事業） 補助金の額、内容等を改善、見直すことが適当（補助事業）
C	<ul style="list-style-type: none"> 事業規模・内容・実施者等の見直しが必要（一般事業） 他の事業（一般事業・補助事業）と統合することが適当（補助事業）
D	<ul style="list-style-type: none"> 事業の統合、休・廃止の検討が必要（一般事業） 補助を休・廃止することが適当（補助事業）

(5) 改革・改善の方向性 (Act)

- 事業の評価結果から、その改革・改善策を検討し、内容等を記載します。
- 「今後の方向性」として、成果とコストの視点から、今後（評価時点以後）の事業実施の方向性について、該当する欄にチェック（レ）を付します。

今後の方向性		コスト投入の方向性			
		皆 減	縮 小	現状維持	拡 大
成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦
	現状維持		③	⑥	⑨※
	縮 小		④	⑧※	⑩※
	休・廃止	①			

- ① 廃止・撤退 = 妥当性の評価「非常に低い」又は（及び）有効性の評価「非常に低い」。複数事業を統合する場合、廃止される側の事業も該当。

- ② 協働化・役割分担 = 有効性・効率性の評価ともに「低い」。行政としては事業実施者相互の調整役に徹し（コストを縮小し）、実施者の力を引き出す（成果を向上させる）。
- ③ 効率化 = 効率性の評価「低い」。成果を維持しつつコストを縮小。
- ④ 段階的縮小 = 役割を終えた補助事業や、制度廃止に向けた激変緩和措置に該当する場合等。
- ⑤ 生産性向上 = 有効性の評価「低い」。コストを維持しつつ成果を上げる。
- ⑥ 現状維持 = 歳入（財源）に見合ったコスト（歳出）維持としつつ、成果を維持。
* 歳入（財源）が 100→90 となればコストも 100→90 とした上で成果を維持。コストを 100 のままとしなければならない場合は、コスト拡大（⑨）となる。
- ⑦ 有効性改善 = 有効性の評価「非常に低い」。コスト（予算）を増額してでも成果を上げるべきもの。
- ※ ⑧から⑩は通常考えられないので、「改革・改善策」欄等への説明を記載。
また、丸数字のない項目には該当し得ない。
- ・ 事業の評価や改革・改善の方向性について保健事業実施協議会から出された意見等については、計画評価シートにその内容を記載します。

5 計画評価シートの記載（作成）時期

- (1) 個別計画の策定 = 当該事業の実施年度に係る予算編成後（12月頃～3月頃）
- (2) 上半期分の進行管理及び事中評価 = 上半期終了後、翌年度予算編成前（9月頃～11月頃）
- (3) 下半期分の進行管理及び総合評価 = 事業の実施期間（年度）終了後（6月頃～7月頃）

6 計画評価シートの公表

計画評価シートは、この手引とともに当広域連合の公式ホームページに掲載し、公表します。

* 公式ホームページアドレス <http://iryokouiki-hokkaido.jp/>

**〇〇年度個別保健事業実施計画 (計画書兼評価シート)

整理番号	-
------	---

個別保健事業名		事業期間		年度 ~		年度
---------	--	------	--	------	--	----

第〇期保健事業実施計画における位置付け		該当する基本目標名	
---------------------	--	-----------	--

計 画 概 要	現状と背景、趣旨・・・上位目標(基本目標)との関係性、どうして					
	事業の対象・・・誰(何)のために、働きかける相手は誰(何)					
	仕組・体制、手段・手順[ストラクチャー、プロセス]・・・どうやって、どのような手段を使って					
	意図・・・対象をどうしたいか、どんな状態にしたいか					
(P l a n)	活動指標	実施してつくり出すもの(内容)は何[アウトプット]	指標名称	単位	指標の算出方法、考え方等	目標値
	成果指標	成果・効果は何[アウトカム]	指標名称	単位	指標の算出方法、考え方等	目標値

実 施 状 況	予算事業名		会計		款		項		目		事業		
	項目		単位	〇予	〇決(又は決見)	〇予	〇決(又は決見)						
	被保険者数		人										
	事業の利用者数		人										
	事業費	節・細節		円									
		合計											
		被保険者1人当たり事業費											
		事業の利用者1人当たり事業費											
	財源内訳			円									
合計													
項目		単位	**〇〇年度				**〇〇年度						
活動指標	目標実績達成率	目標											
		実績	%										
	目標実績達成率	目標											
		実績	%										
成果指標	目標実績達成率	目標											
		実績	%										
	目標実績達成率	目標											
		実績	%										

**〇〇年度個別保健事業実施計画 (計画書兼評価シート)

整理番号	-
------	---

個別保健事業名		事業期間		年度 ~		年度
---------	--	------	--	------	--	----

期	目 標		実 績		課 題			
	上半期							
下半期						【評価 (Check) 欄にまとめて記載】		
翌年度予算編成に当たっての事中評価 (年度途中の仮評価)								
半 期 ご と の 進 行 管 理	翌年度予算編成時までに新たに生じた問題点や環境の変化		今後の方向性		コスト投入の方向性			
					皆 減	縮 小	現状維持	拡 大
	翌年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)		成 果 の 方 向 性	拡 充		②	⑤	⑦
				現状維持		③	⑥	⑨
				縮 小		④	⑧	⑩
			休 廃 止	①				

評 価	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価			
		1	2	3	4	評価	1	2	3	4	評価	1	2			3	4
	チェック																
価 値 題 (C h e c k)	課 題 総 合 評 価															A	計画どおり事業を進めることが適当
																B	事業の進め方に改善が必要
																C	事業規模・内容・実施者等の見直しが必要
																D	事業の統合、休・廃止の検討が必要
														前年度総合評価			
														前年度整理番号		-	

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A c t)	改 革 ・ 改 善 策	今後の方向性		コスト投入の方向性					
				皆 減	縮 小	現状維持	拡 大		
				成 果 の 方 向 性	拡 充		②	⑤	⑦
					現状維持		③	⑥	⑨
					縮 小		④	⑧	⑩
			休 廃 止	①					
「北海道後期高齢者医療広域連合保健事業実施に関する協議会」における意見等									

最終記載日		年		月		日
-------	--	---	--	---	--	---

**〇〇年度個別保健事業実施計画（計画書兼評価シート） [補助事業用]

整理番号	-
------	---

個別保健事業名		事業期間		年度 ~	年度
---------	--	------	--	------	----

第〇期保健事業実施計画における位置付け		該当する基本目標名	
---------------------	--	-----------	--

計 画 （ P l a n ）	補助金を支出する根拠、趣旨 …… どうして				
	補助金の支出先				
	意図 …… 誰（何）のために（対象）、対象をどうしたいか、どんな状態にしたいか				
評 価 指 標	成果・効果は何 [アウトカム]	指標名称	単位	指標の算出方法、考え方等	目標値

実 施 状 況 （ D o c u m e n t ）	予算事業名		会計		款		項		目		事業			
	項目	単位	〇予	〇決(又は決見)	〇予	〇決(又は決見)								
	被保険者数	人												
	事業の利用者数	人												
	事業費	節・ 細節		円										
		合計												
		被保険者1人当たり事業費												
	事業の利用者1人当たり事業費													
	財源内訳		円											
合計														
項目	単位	**〇〇年度				**〇〇年度								
成 果 指 標		目 標												
		実 績												
	達成率	%												
		目 標												
実 績														
達成率	%													

**〇〇年度個別保健事業実施計画（計画書兼評価シート） [補助事業用]

整理番号	-
------	---

個別保健事業名		事業期間		年度 ~		年度
---------	--	------	--	------	--	----

半 期 ご と の 進 行 管 理	期	目 標	実 績	課 題		
	上半期					
	下半期			【評価 (Check) 欄にまとめて記載】		
	翌年度予算編成に当たっての事中評価 (年度途中の仮評価)					
	翌年度予算編成時までに新たに生じた問題点や環境の変化		今後の方向性	コスト投入の方向性		
				皆 減	縮 小	現状維持
翌年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)		成果の方向性				
		拡 充		②	⑤	⑦
		現状維持		③	⑥	⑨
		縮 小		④	⑧	⑩
		休 廃 止	①			

評 価 課 題 (C h e c k)	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価				
	評価の観点	1	2	3	4	評価	1	2	3	4	評価	1	2	3	4	評価		
	チェック																	
	課 題															A	補助金を現状のとおり支出することが適当	
																B	補助金の額、内容等を改善、見直すことが適当	
																C	他の事業（一般事業・補助事業）と統合することが適当	
総合評価															D	補助を休・廃止することが適当		
																前年度総合評価		
																前年度整理番号		-

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A c t)	改革・改善策		今後の方向性	コスト投入の方向性			
				皆 減	縮 小	現状維持	拡 大
			拡 充		②	⑤	⑦
			現状維持		③	⑥	⑨
			縮 小		④	⑧	⑩
			休 廃 止	①			
「北海道後期高齢者医療広域連合保健事業実施に関する協議会」における意見等							

最終記載日		年		月		日
-------	--	---	--	---	--	---